Title	符疏に関する調査(香港):民衆道教の周辺(その三)
Sub Title	Chinese paper "Charms" in the changing society of Hong Kong
Author	可見, 弘明(Kani, Hiroaki)
Publisher	三田史学会
Publication year	1973
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.45, No.3 (1973. 5) ,p.1(241)- 46(286)
JaLC DOI	
Abstract	The object of this paper is to discuss as comprehensively as possible Chinese paper charms in the changing society of Hong Kong. There are collected seven kinds of paper mock money, seven kinds of paper mock clothes, and nearly forty kinds of paper charms that are sold in Hong Kong in the early 1970s. As long as the paper charm is a materialization of the Taoist cut, the paper charm must be drawn up by the Taoist priest. This is what the paper charms and other magic scripts should be. In fact, it was one of the chief pursuits of Taoist priests in the former days to draw up paper charms. In Hong Kong today, however, paper charms are "ready to use" ones, which are printed in factories in large quantities and are passed from wholesalers to superstitious believers through the retail shops in towns and villages. There are more than three hundred and fifty paper charm shops isted in the yellow pages of the local telephone directory for 1970. All these shops are small in size and run by people whose schooling is generally less than five years in duration. Authentic ritual experts are hardly to be found throughout this industry. The industry as a whole seems to be depend on one's knowledge of how to choose the most suitable paper charms according to each case. This practical knowledge has been handed down by word of mouth. Being ready made, paper charms are easily obtainable from the retail shops found eleswhere in Hong Kong at a reasonable price. Rites with these charms are also simple, generally "do-it-yourself" projects with no priests needed. The rite can be performed at the nearest temples, at the gate of the house, or even by the roadside. Incense, red candles and foods would be offered there. Murmuring against desires one has, one burns paper charms, mock money, mock cloth and sometimes papier mache. One specific characteristic of local paper charms is then transformation from Taoist document such as Su this of petition, Tieh fig or communication/order, Ch'uan chang \$\frac{\pi}{2}\$ or ordification to paper charm

	say, the mass-printing system and social changes. All paper charms today have been singled out for survival; in other words, they have been adhered to so deeply that they could survive among numerous paper charms in the past. Of the present local paper charms, the best seller is "Grand Catastrophes", a collection of selected paper charms, mock money mock cloth and a paper boat to which the sickness or misfortunes are transferred. This is a manifestation of people's desire to avoid the troublesome choice of paper charms. "Orders for Five Treasures" is one of the good sellers. It consists of five different paper charms, each in the form of an envelope, conferring happiness, emolument, longevity, wealth and a harmonious union respectively. Then, there is a variety of paper charms concerning Kwai-yan (貴人) or Honourable Man and Luk-ma (緑馬) or Green Horse. I feel these paper charms stand in some relation to the social life of Hong Kong where human relationship is very much complicated and mobile. Throughout local paper charms today, such traditional conceptions as the horoscope, the time of birth for life-reading purposes, barriers, malicious ghosts, wandering ghosts, five demons, earth spirits, etc., are still performing valuable functions among the traditional minded Cantonese of this part of the world. Comparing Taiwanese Taoist rites conducted by real Taoist priests with local paper charms, it is suggested that the paper charms represent a simplified version of the original rites. The rite itself is transferred onto the paper charms, since illustrations on paper charms sometimes represent paper gods and paper offerings used for rites. Taoist documents on paper charms are also reduced, and simplified drawings of the documents are burnt as magic papers. It is understood that replacement of actual rites by paper charms was, perhaps, brought about by a lack of real Taoist priests. A lack of real Taoist priests impilied the society to produce the paper charms with illustrations, so that Taoism could survive even in a
Notes	論文
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19730500-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

符疏に関する調査(香港)

----民衆道教の周辺 (その三)-

可见弘明

さないのである。符疏はがんらい誂えであるべきものにちがいないし、道教ないし仏教的具現として道士ないし仏家の手 ければ、ただの紙片とかわらない。道士、呪術者が書き、運用することによって、符呪、法力を依憑させなければ用をな 能者たちの手中にあってなんらかの道教儀礼に伴うことが多い。符疏は邪魔にたいし支配力を有するように法力を施さな お民間信仰の一つとして、根強く残っている。いうまでもなく、解放前の広東省における旧慣を継承するものである。 がこの根底をなしている。このような観念は近代社会がとうに清算しておかねばならないものであるが、香港では現在な あった。人間の疾病、 同じことは東南アジアの華人社会や台湾省についてもいうことができるが、台湾では符疏の多くがまだ道士や呪術の職 符疏によって避祟、 凶災、運気は、すべて神仏の懲罰、 解災を行うことは、旧中国社会で受容されていた道教儀礼の一つであり、また民間信仰の一つでも 邪魔の祟り、生辰にもとづく星まわりなどによる、という観念

ているだけでなく、商店から直接信奉者へ流れていくところに特色がある。道教儀礼の範疇に直接はいらない新しいパタ 香港の符疏は、 これと際立ったちがいがある。符疏が木版機械印刷、 木版手刷り、 オフセット印刷によって既製品化

符疏に関する調査

中にあるのが本来の姿であろう。

ーンができているのである。

いる。 紙料店というのは、 は竹枠に紙を貼ってつくったものをいう。 加工である。 符疏を売る店を、 紙紮品はだいたい注文によってつくるが、 動物、 香燭紙紮店が紙紮品を扱うのは臨時であるが、 器物がある。大がかりな紙紮品を専門につくる美術紙紮店も少数あるが、 日本風にいえば紙屋である。 「香燭紙紮店」とか「香燭紙料店」 紙紮品には、 仲秋提灯のように、 とよぶ。紙紮というのは紙張子のことであり、 陋 葬式、 通年販売しているのが符疏、 盂蘭盆、 見込み生産をするものもある。 その他各種の道教儀礼、 紙銭、 ふつうは香燭紙紮店が取扱って 紙衣、 いづれの 民間信仰に 香燭である。 紙だけで、 ばあいも手 用 あるい いられ また

うし、 香燭紙紮店は専ら紙加工品を扱うのであって、 香燭だけを専門に扱う店は香燭店とよぶ。 木製の神棚とか御札などは、 別に 「神牌店」 があってその製造販売を行

香燭紙紮店には、 製造問屋と小売店との別がある。 実数は不明であるが、一九七○年の職別電話帳にあげられただけで

業 5 仗 店 花 126 香燭紙料店 351 14 18 製品 35 業 7 錫箔業 15 業 6 業 7 炮 鞭 殯儀運柩業 22 店 37 長 生 衣 店 寿 5 20 **E関係店数** 簿」中文・職別

の部により集計)

礼服租賃

釘

装

9

3

くように、香港では香燭紙紮店が目につくのである。農村の雑貨店が兼営している。台湾で寺廟が目につをみかけるし、市外地では墟市に集中しているか、では一ブロックに必ずといってよいほど香燭紙紮店も、実に三五一軒をかぞえることができる。市街地

分が香港で印刷されるのであるが、 製造問屋では、 月より発生直後の十一月に至る間にさえ、 自己の版木、 木印を用いて特殊な符疏を印刷するが、 近年までかなりの量が中国大陸から移入されていた。たとえば文化革命前の一九六六 一千万香港ドル以上の符疏が移入されている。 大部分が印刷所に発注されている。 製造問屋には、 以前から大部 店主夫婦

符疏に関する調査

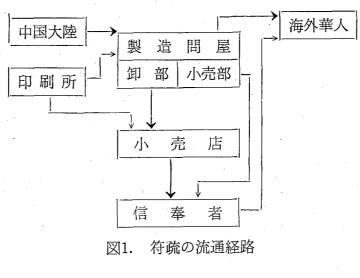
ほか、 みこみであるが、 販売、 常用雇用者は通動である。労働時間が長い割に給与が低いため、 梱包、配達などを分担する常用雇用者十数人と、雇用者のために食事をつくる賄人がいる。 中年以上のものが多い 賄人は住

が紙符の製造問屋を兼ねていて、そこから小売店へ卸売りされることもある。 われる。 六万香港ドルの符疏が再輸出されている。 カ向けのばあいは個人的なギフトの形をとって郵送されるのが大部分であり、卸売問屋より発送される分はすくないとい 製造問屋では、 しかし卸売問屋の主たる業務は輸出ではなく、 自己の店で小売りするほか、 このなかには、 東南アジアの華人社会あてに海外発送を行う。前記した期間には、 ローカルの小売店へ卸売りすることにある。 アメリカなどへ送られるものが若干あると思われるが、 なお一部では印刷所 約四二 ア ・メリ

を兼業する店も少くないが、このばあいは常用雇用者一、二人がいる。 小売店の多くは零細企業であることが多い。夫婦二人で経営し、子供たちが臨時に店を手伝うていどである。 文房具店

学校教育をうけたか、 (1) を含め学歴五年が二人、 0 教育的背影が投影しているとみてよい。しかし学校教育の恩恵に浴せなかったことは、 香港島において任意に選んだ香燭紙紮店九軒 あるいはゼロの店主によって経営されている。 同三年が三人、残り四人は学歴なしという結果を示している。 (製造問屋 一、小売店八) 符疏には誤字、 の経営者について学歴を調査してみると、 あて字、俗字がすこぶる多い。 大部分の香燭紙紮店が、すこし 旧中国社会では稀なことではな 店主 私塾 の

ところが喃嘸佬は見よう見まねで簡単な儀礼を宰領するぐらいのものであり、特別に宗教上の修練を経験しているわけで 知識の所有者が存在しないことである。 を通じ、 驚くべきことは次の事実である。 また経営者と雇用者をふくめ、 **符疏の流通経路を簡略に図示すると図1のようになるが、符疏のインダストリイ全体** 強いていえば、 符疏そのもの、 あるいは符疏を使う儀礼に関し、 唯一の例外は「喃嘸佬」が香燭紙紮店を経営するばあいである。 その説明理論ともなるべき宗教



るが、 ものを有さず、 いての、昔からの口伝を唯一のたよりにして成立しているわけである。 は ない から、 香港における符疏のインダストリイは、 深い宗教上の知識を身につけているわけがない。 またよるべき書冊もなく、どの種の災厄にはどの符がよいかに 結局のところ宗教知識に精 極端 な () 7 方であ 通した

ように用いるかを、 ことさえできれば、 庭に多い。 育をうけたものよりうけなかったものに、西欧化のすすんだ家庭より伝統的な家 大部分を占め、 儀礼なのである。 信奉者の側も符疏の説明理論には無頓着であり、 従って符疏の用い方も簡単である。 女性のなかでは年令が高くなるに比例して多くなり、 これも口伝によって知っているだけである。 その裏づけとなる説明理論を知らなくとも、 災厄に応じて適切な符疏をえらぶ どの災厄にはどの符疏 性別では女性が 誰にでもできる また学校教 をい

入る。 若干の紙紮品と簡単な供物をし、 儀礼的手続きは全く必要としない Z のあとも、 宗教的職能者を招いてくる必要がない。 思い思いの願いごとをつぶやきながら焚化するだけでよい。 先づ、安い値段でいつでも、どこでも、香燭紙紮店へ行って簡単に符疏 寺廟の金爐、 門口、 路頭などもよりの場所で、 他人の手助け、 香燭をあ やっかいな が手に

師、 まで個々の信奉者にある。 疾病や災厄が厳重であると、通書や符疏についてより詳しく知っている隣人の助言を頼んだり、 盲目の売卜者などに原因を探ってもらい、あるいはその示唆と助力を仰ぐことがあるが、そのばあいでも主体はあく(3) 儀礼の宰領を喃無佬にたのむのは、よくよくのことである。 喃嘸: 佬 問神婆**、** 択日

者の は、 tradition 用としてとらえる方向は、 旧 中国やインドのごとき文盲率の高かった地域の文化伝統を、 香港にもたらされた文化伝統があらかた the little tradition であるとし、これを the little tradition は文盲の民衆が口承していく文化伝統のことである。 は書冊、 経典を有し、思想家とか文人により、学校、寺院で培養され、 がんらいアメリカの人類学者がインド農村の分析に用いた方法論であるが、 the great tradition と the little tradition の相互作 この概念を香港に適用したトプレイ女史 うけつがれていく文化伝統であり、後 前者の

- (1) 年中行事あるいは月例の形をとり、 周期的に行われる儀礼 (Regular Rites)

災厄など、その必要がある時だけ臨時に行われる儀礼 (Occasional Rites)

(2)

病気、

消災との関係を明らかにし、 抽出しただけであって網羅的な意図をもたないが、符疏の背後にある広東人の超自然観、とくに「小人」、「貴人」と解厄 とに区別し、 その2の典型的な例として各個人が符疏を用いて行う儀礼をとりあげている。 神々の世界における序列体系のなかでの「貴人」 の位置づけを試みている。 トプレイ女史は重要な符疏を

くめ、すべて街巷における実地調査によって粗資料をうることからはじまる。次いで符疏の分類と体系づけがはじまるが 衆道教に関するそれは この段階では台湾における道教儀礼の知識を援用する必要がある。台湾では個々の道教儀礼が現在でもよく観察されるか いうように後者の好例である。それだけに、香港における符疏の調査は、インフォーマントに香燭紙紮店と信奉者とをふ 道教研究についていえば、 the little tradition 教義、教団、 経典に関する研究は the great tradition にかかわりをもち、 にかかわる。 香港でみられる形の、 符疏による避祟解災は、 民間信仰的な民 トプレイ女史の

さらに符疏と不可分の関係にある「紙銭」、「紙衣」の調査が併行することになる。

ここでは先づ香港でいかなる紙銭、 紙衣が通用しているかについてのべ、次に四〇種類近くの符疏をとりあげてみる。

符疏に関する調査

五.

I 紙銭および紙衣

くするものとして、元宝、 香港では台湾ほど多種類の紙銭がなく、 溪銭、 陰司紙、 往生銭があるにすぎない。 いわゆる金銀紙としては寿金、 金紙、 銀紙の三種類、またそれ以外の紙銭にぞ

的機能をもつことになる。 陰間で恵まれた経済生活をしてもらえば、すくなくも、その破綻によって人間に加えられる祟りはさけられるという心理 とされていることは改めていうまでもない。従って神明や死者を忘れず、誠心をもって仕えている意志表示となる。 嗣 廟の金爐、 街頭、 墓地などで焼いて(焼金)、神明や死者におくる。これをうけた神明や死者が陰間の費用にあてる、 また

である。 平らにするとできあがる。 く二回折込む。 ら焼くほか、 た金銀紙は、 焼金の方法には、①一枚づつ焼く、 (5)金銀紙を折って焼く、などがある。折り方は、 次に折込んだ端を指先でつまんだまま、別の指で左右両端の下方をそれぞれ内側に押しこみながら表面を 糸を通していくつも重ねて焼いたり、あるいは、 いうまでもなく、 2東にして焼く、3扇形にひろげて焼く、 馬蹄形をした銀塊 先づ紙をまるめて上下両端をあわせてから、 (馬蹄銀・元宝銀) 清明掃墓の時などのように、数個を環状に組んで焼くの 4互いちがいに重ねて、紙盆状にしてか をかたどったものである。 重ねたまま浅 この形に折

開いた形を模している。香港では約七種類みられる。紙衣は紙銭か符疏といっしょに焚化するのであり、 るものである。 紙衣は紙でつくった衣服のミニアチュアであって、これを焼いて陰間におくると、 しかし普通 般のものは簡単につくってある。 部には金銀紙、 紙紮で飾りたてた豪華、 両身頃の辺に三角形の紙片を貼りつけ、 大型の紙衣がある。 多く盂蘭盆の時に特別誂えしたものであ 神明、 邪魔、 清代の官服にみるような裾の 祖先が衣服 単独で用いるこ の用にあて

1 寿 金

印刷は赤色。14.2×15.8 cm れらを花模様の枠でかこみ、 の左右に銭貨の図がある。また丁(右上)、財(左上)、双喜(左右下端)、禄(寿の上)、貴(寿の下)の字がある。こ けであり、どの神仏にたいしても通用させている。正方形ではなく、いくぶん縦長である。中央に寿の一字があり、そ 台湾で五色金というように、がんらい五種類あり、用途に厳格な区別があったと思われるが、香港では現在一種類だ その外側に太枠をめぐらす。さらに中央に金箔をあらわす金色の四角がある。文字などの

2 金 紙

いろある。 刷すると銀色が金色に変化する。 般に祖先のために焚化する。紙の中央に約五センチ四方の金箔をもした四方形をおいたものをいう。大きさはいろ 金箔も銀箔もがんらい同じであり、銀箔を刷っておいて上から金薬 寿金、 金紙には刷毛の痕がのこっている。 A 12. $4 \times 14.1'$ (槐花、 明礬、 康淘からなる)を刷毛で B 14×16 cm

3 銀 紙

祖先、 孤魂、 邪魔に用いる紙銭である。 紙の中央に銀箔様のものを印刷したもの。 これも店によって大きさが一定し

4 元 宝

ない。10.5×12.5 cm

仏 宝を何枚もたがいちがいに重ね、紙盆状にしたものを「元宝盤」とか「元宝盆」という。その上に符疏をおいて焚化す 「土紙」というやや厚い褐色の粗末な紙であり、文字の印刷はない。 祖先、 邪魔を拝む際に、 元宝の中央を浅くくぼめて何枚となく焼く。 土紙は竜眼の核、 たいてい符疏、 枝葉を原料としてつくる。 紙銭といっしょに用いる。元 神

符疏に関する調査

七

るのである。17.5×25 cm

5 溪 銭

賭館 魂にあたえる。葬列が交差点、カーブ、橋畔など孤魂の多いところにさしかかると、そのつど溪銭をまきちらす。また 短冊 私寨、毒窟などが、鬼にあたえて客をつれてきてもらうためにばらまく。一部では盂蘭盆のとき祖先のために焚 空にまき散らしたりして孤



化することもある。5.3×15 cm

6 陰司紙

一年の文字がみられる。図入りで、超高額紙幣とするのがある。これを東ある。表は赤で裏は青で刷るが、紙質は粗悪である。これを束ある。表は赤で裏は青で刷るが、紙質は粗悪である。これを束ある。表は赤で裏は青で刷るが、紙質は粗悪である。これを束める。表は赤で裏は青で刷るが、紙質は粗悪である。これを束める。12.5×5.5 cm

7 往生銭 (図2)

死者のために焼く斎公経」としたものに相当する。そうであれ句がとりまいている。ドレが「喫素教徒が死後直ちに教徒たる往生神咒とあり、その周囲を三重に呵弥、唎呵、婆呵などの字円形をしている。黄色の薄紙に朱色で印刷しており、中央に

は ば、 とあわせて孤魂におくる。 往生銭をうけた新鬼、 また幽鬼に善事を施す意味で焚化している。大小みられる。 外側から嚢謨阿弥哆阿……と時計方向に読み、次いで順次内側へと同じ順序で続いていくものであろうか。 中心に線香を通して孔をあけてから、他の紙符といっしょに焼いて新しい死者におくる。また盂蘭節に休衣休禄 幽鬼は早く輪廻できるので、 喪家では死者が早く投生できるよう 香港 (別 で

品は、 ている。67×77 cm できる。広東の謝灶は、官が二十三日、人民が二十四日、 図柄がある。元宝盤に灶君衣と寿金をのせて焚すと、灶君が玉皇へよしなに報告する結果、翌年は陰罰がなく楽居楽業 旧十二月の謝灶に用いる紙衣である。二枚一組であり、一枚が黒色、もう一枚が赤色をしており、それぞれ背に竜の 香燭一対、 鶏一 羽、 焼肉塊一段、 甘蔗三、四節であったという。ただし香港では謝灶の風習は殆んどすたれかけ 蜑民が二十五日、

痳瘋者が二十六日に行い、

人民が用いる祭

9 観音衣

心 観音観(旧二月一九日、六月一九日、九月一九日)や、観音菩薩を拝む時にこれを焚化すれば、観音が誠心をうけて 息心、 保佑してくれるという。これは一枚一組である。白地の紙衣に、鳳凰、 貴人指引永保平安、緑馬(いづれも別項)と一緒に元宝盤にいれて焚す。単独で焚すことはないように思 蓮座、双魚 (富貴の象徴)、鴛鴦 (福縁の象徴)、ぶどう、大悲咒、 法子、楊柳の枝、 花などを多色印刷したもの。 瓶、 花藍、 仏手柑、 石蒙

10 天神衣

れる。67×77 cm

灶君衣と同じ双竜争珠の図柄のある紙製 一竜袍」 であり、三枚で一組となる。いかなる神明にたいしても用いること

符疏に関する調査

ができるが、とくに祈福と還神(神明に感謝する儀礼)に多用される。目的に応じて寿金、玉皇紙 に元宝盤にのせ、戸外において、天に向って焚化するのである。57×51 cm (別項) などと一緒

11 竜 衣

うにみられる。寿金、元宝と一緒に焚化して還神を行う。40.5×31 cm ○枚で一組とする。赤の竜衣は洪聖大王、白のそれは観音菩薩のためであるという人もいるが、厳密な区別はないよ これも竜袍をかたどり、袖に各一竜、背に三竜がみられるが、天神衣より小さい。赤、桃色、黄、青の四色があり、

12 祖先衣(大領)

などがある。 命日、 清明節、 それぞれ牡丹の花、 重陽節に紙銭を添えて焚化し、祖先におくる紙衣である。一○枚一組となり、赤、桃色、黄、青、紫 圻 菱形の模様が印刷されている。 祖霊を忘れていないことを表わすのが目的であ

	世界共界の一	大上光君①	千年 科月 事日	が間、那度人	馬功德宿民	世司馬天度 大下死天神	姓牧芸草	る三人間を	上日度天界	主教放生灵录	-
-	京の表表界の	三人上老君田	奉行科事	明間照度人	白馬功德宿灵	度世司馬天度	題姓校苦天真	X 国 X 国	道上日度天界	友上 表主 表主 表 主 表 主 表 是 表 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是	
	界。景、界の	三大上老君母	奉行科事日	明問照度人	白馬功德宿灵	校世司馬天度 度人下死天神	魑魅救黃美草	公司不同不	道上日度天界	· 天宝大法司 大上教放生灵汞	
	界正界天界の	三大上老君田	奉行科事日	明問照度人	功德宿灵	度世司馬天度	題	Man Man	道上日度天界	方主 表主教放生 夏汞	
7	界工界天界の	宝大上老君田	奉行科事	明間照度人	白馬功德宿灵白	度世司馬天度	魑魅救養天尊	の関係を	道上日度天界	方 民 宝 大 法 司 表 皇 大 法 司 景 星 表	
	界正界天界の	三大上老君田	奉行科事	間照度人	馬功德宿灵	世司馬天度	魑魅枚登之草	然 一 る 国 な	道上日度天界	发生大法司 安生大法司	
				図	3	休衣	休春	录			
人と求き 大きな で に る 「 品 東 前 明 は な と	こう文字で見ている。これで	休衣休禄の一組は、紙衣三六枚と同数の	1 位才位初(图3)		である。27.5×22.3 cm	あるが、図柄のないプレーンな紙衣ばかり	り、一〇枚で一組となる。四色ないし五色	名子一声をお言いおり、参言	各可で見る也巨工奉げて変け 氏文であ	13 地主衣	№ 40×31 cm

衣三六枚と同数の 盂蘭節焼街衣と

る。 ないので、 るので、一組でほぼ一カ年間の用にあてることができるという。 いうように、旧七月地府を出て各所を徘徊する孤魂のためにこれを焚して善事をほどこし、 今でも旧七月になると、黄昏を待って、各戸の主婦が路傍に水、酒、飯、青果、芫茜、 休衣休禄十数組を巻いて、溪銭、往生銭、元宝などと一緒に焚化するのが見られる。紙衣は一枚が十日間使用でき 他の紙衣とすこしことなる。紙衣 27.5×22.3 cm 休禄 14×12 cm 赤、青、紫の三色がある。形は両身頃に三角の紙片が 焼肉塊を供え、 かつ善報を期待するのであ 香燭をとも

符

疏

に、道教儀礼で用いる文書にも、 香港で「符疏」と総称されるものは、いわゆる紙符のことであるが、これを形式上からみると、本来の「符」だけでは 疏、牒、 金牌、 全章(金章) 種類、 から変化したものを多数ふくんでいる。 書

大
、 用語に明確な区別がある。 旧時代の官用文書に厳密な区別があったよう

で書き、末尾からまるめ、これを黄色の状袋に封入する。もし南北二斗星君にさしだすものであれば、状袋の上方に墨で 南北二斗星君と書いた赤い紙片を貼り、下方に霊宝大法司封とし、 疏は、 道士がその官名によって、祈願者にかわり、上級の神明へさしだす上行文のことである。 木印をおすのである。 赤ないし黄色の紙に墨

の左 もし道士が解厄消災の指示を北宸威光大帝主冤司官にあたえる牒であれば、状袋の上方中央に大きく霊宝大法司とし、そ やはりその官名によって、関係諸神の許しをえて、問題を職掌している同格ないし下級の神明に指示をあたえるのである。 これにたいし牒は平行文もしくは下行文をいうようであり、黄色い紙に墨で書き、これを白い状袋に封入する。道士が (右) に小さく北宸威光大帝主冤司官(右牒上)と書く。

また金牌は官用文書の牌に相当する下行文ないし命令書である。 全章は榜に相当し、 これを貼りだして告示するものを

符疏に関する調査

いう。全章には黄、赤、黒の紙を使用する。

では ように用いる例がすくなくない。実態からいえば紙符と化しているのであるが、呼称にはいまだ疏、 ところが、香港ではこれらの区別、書式が乱れているばかりか、封入すべき文書を割愛し、状袋だけをあたかも紙符の がんらい疏や牒の類は、 ないが、 香港的特色といってよい 儀礼の間に道士が読みあげ、儀礼の最終段階で焚化するのであるから、紙符化してもふしぎ 牒をつけてよんでい

に呪、 0) のような名で各種刊行された以前の通書から転刻されたのではないかと思われる。本来の符がすくないことも香港的特色 紮店で木版刷りになっている本来の符を多くみつけることは困難である。また手書きの本来の符をみることもすくない。 が収載されている。すべて、ドレが 保胎霊符、 通書にあげられているのは、 一つである 香港で広く利用されている通書、『広経堂通勝』をみると、張天師符、鎮宅浄水神符、百解消災符、張天師鎮諸煞神符、 あるいは呪文ともいうべき字句、いわゆる符を書いたものである。仮にこれを本来の符とよぶことにする。 鎮宅駆犯符、 净水霊符、 現代香港における通用を忠実に反映しているわけではなく、例えば 治発冷霊符、 Researches into Chiness Superstitions の巻二、巻三にあげているような、 鎮煞霊符、 眼熱肚痛霊符、 治方応痛霊符、 各月生人犯符の実例と用い方 『万宝玉匣記家用 秘書

0 のであるが、 これにかわって紙符の主体となっているのは、絵図を多用するものである。絵図だけのもの、絵図と祈願文からなるも さらに本来の符を加えたものなどがみられる。絵図を加えた紙符があることは、 紙符の主流が絵図式のものによって占められていることは、やはり注意しておくに足る。 道教でも仏教でも怪しむに足らな

財とか無病息災に関するものと、 さらに使用目的から香港の符疏を概観してみると、鎮宅符、平安符、駆邪符に大別して整理できるが、平安符は招福 補運に関するものを含んでいる。また駆邪符については、 貴人禄馬とか小人に関するも

のを多数ふくむ。 な分析があることは既述したが、ここではトプレイ女史のあげていない事例によって説明してみよう。 広東の地方的特色であるので、説明を要することと思われる。これらについてはトプレ イ女史の簡単 明

う。 が、 犯するわけである。 生活慣行においては、どうしても好きになれない人、あるいは嫌悪を感ずる人がいれば、その人の性格や行動は小人の妖 たら碌なことがないと強く意識されていたよい証拠に、「君子に罪を得ても、小人には罪を得るな」という俚言があった。 人に気をつけて」(提防小人作怪)といって送りだした。ひとたび小人の祟りにふれると面倒が生じ、病気、不運、 では小人とは一体なにか。小人を腰蓑をまとった蛮人の姿であらわした「五鬼紙」(別項)という紙符がある。 広東方言を話す人たちがもっていた 超自然感の一つに、 小人 Siu Yan なる存在がある。 鬼によく似た悪影響を及ぼす。年配の人は、急に気分が悪くなると、「小人のせいかもしれぬ」(可能小人作怪) あるいは、 かけられているとされる。ところが小人を五感でいつも識別できるとは限らないから、ちよっとした油断がもとで冲 悪い噂、 家族の誰か一員が新しい仕事につく時であるとか、行ったことのない土地へ行くとしよう。 だから知らぬ人は遠ざけておくにかぎるのである。 家庭内の争い、縁談妨害などがおきる。ばあいによると犯罪をおかすはめにさえなる。 小人は鬼そのものでは その時、 日 揉事、 とい ない

をあたえる力をもち、 K う安心感を民衆にあたえてきたことを示している。これが、吉星として四柱命理で称している何某貴人と関係あるかどう か けるこの種の神明としては、 れにたいし、 知らぬが、 お助けを」(貴人得力貴人扶持)とつぶやく慣行が一部に残っている。 ランキングの低い「小神」の一つであり、小神であるだけに俗人がたやすく接近できる利便がある。 俗人の最も身近かにあり、 繁栄の機会をもたらしてくれる。 従来から観音とか土地神系統のものに注意がかたよっていたことが反省させられる。 俗人の困難をよく解決してくれるのが貴人 Kwai Yan である。 困った時、「貴人に逢いますように」(出路遇貴人) 貴人に祈願すれば、 困難も解決できるとい とか、 貴人は幸運

 \equiv

四

子、失踪、 駆邪符の多くが貴人、緑馬に関係するのである。ここでは、貴人と小人は、 く禄のホモフォーンである。貴人とともに、運気の弱さ、小人の祟りに原因がある災厄、 将軍であり、 貴人は緑馬 遺失は小人の冲犯によるとされ、貴人や緑馬に祈求してつれもどしてもらうのはその一例である。貴人と小人 貴人が途を指示し、緑馬が助力して、信心する人を順利に導くのだと説明する人がある。 Luk Ma と一対で信仰されることが多い。緑馬は貴人の乗馬であるという人と、緑馬に騎乗するの かなり明確な形で対照的な位置をしめる。迷 病気の解除に威力があるので、 緑はいうまでもな は

符するもの、 ものは意外にすくない。 最後に符疏の用い方であるが、大部分が焚化するものである。壁や門戸に貼るものがこれに次ぐ。まるめてそのまま服 折って身につけておくもの、灰にして水にまぜて服符するもの、灰にして水にまぜそれを床や地面にたらす

の力関係の強弱に、

禍福のかなり多くが説明されてきたわけである。

を果してくれるのも確かである。なお各項末尾の数字は、 0 の符疏を網羅しているとはいえないが、 相互作用をトレースする起点としては十分な数である。また、 以下において、 いかなる符疏が香港に存在するか、 符疏がなぜ旧中国社会に深く浸透したのか、 四十種類近くをとりあげ、個々の符疏について説明を加える。 符疏の左右と上下を計った値である。 いづれは消滅するであろう広東符疏の記録保存的な役割 あるいは道教的な教理と民間信仰と 香港

1 土牛符(土主符)

刷。 鎮宅符。 符面は三段からなる。上段は太上安土符命の六字を横に列べ、中段は符呪をはさんで次のようにある。 五枚 組であり、赤、 黄、 紫、白、 青の紙に同じものを印刷し、重ねて二つ折りにしてある。 木版、 緑色印

右符告下

五方五土竜神君事鎮宅将運赦

除修道之行錫以菓謝之慶如誥命

本年 月 日告下

奉行科事 承諾

大聖五竜安鎮天尊

下段は、土牛と、土符鎮宅の旗をふる神明の図になっている。 土を耕し、土地を興すため土主に関与するのであると。 する。これに従うとすると、旗をふるのは土主であり、 る。地下に土牛五頭があり、東、南、 西、北、中央の五方を占め、怪異を行う。そこで、土主を五方に配置して鎮土と 五枚一組は五方にちなんだものか。別説によると、牛はよく田 土牛と鎮宅について、 香港では二種類の説明が聞かれ

さんで焚化する。 ないと判断される時などに土牛符を用いる。先づ通書によって時刻を選び、香燭をともしてから元宝の間に土牛符をは 各戸で祀る地主の神牌を、転居に際して土地公祠で焼く時、新しい地主の神牌を奉置する時、奉祀中の地主が安寧で その際、 「五方五帝土竜神君、土公土母各神、 袪邪出外、 永保平安、九官八卦、各安五福八節」など

2 吉星拱照

とつぶやく。15×28 cm

鎮宅符。紙片に吉星拱照と筆で書いて、戸口の梁に貼る。坪洲などでよくみかける。大きさは不同。

浄水符

と思われる時や、 を鎮める呪力をもつ。 宅地と家宅を鎮めるための紙符。邪魔が宅地、家宅に依拠して変異を生じないよう、あるいは変異を生じた時にそれ 家内に死人、病人を生じた時、あるいは新しい居宅に移った時(新入伙)などに、 短冊形の黄色い紙に、赤色で印刷したもの。 紙は黄腊紙とよぶ。主として幽鬼、 鎮宅、 妖怪が依拠した 浄化、

符疏に関する調査

のために用いている。 この紙符を焚化し、その灰を清水にまぜ、地面や床にそそぐのである。浄水符には二種類みられ

る。

勝』にあげられた浄水霊符は、玉華司勅令(三点符頭)九鳳破穢宋劉二将軍清浄となる。6.7×18 cm は「勅令玉華司九鳳破穢清浄」とあり、 勅令の下に、 風火雷を象徴する 三点符頭を附してある。 なお 『広経堂通

宅浄水神符と同一である。坎の卦は水を象徴するためのものであろう。7.2×14 cm 他の一つは、ひらがなの「の」に似た符打の下に玉華司と書き、坎の卦、符、変形文字と続いている。 前記通書の

4 福禄牒

は各種あり一定しない。平安符。 書いたもの。赤い紙に金色で手書きしたものや、きれいに多色印刷したものがある。戸口のほか室内にも貼る。 牒と称するが、符とよぶ方が正しい。正方形の紙を用い、一方の対角線を上下軸として「福」あるいは 大きさ の字を

5 五宝牒

組合せに次の二種類がある。数字は左右、 牒あるいは金章から転化した平安符の一つであり、 五宝(丁財貴寿禄)祈願に用いる。 上下をあらわすが、セットAには大小ある。 五種五枚で一組となり、その

セットA

三天賜福転運降鴻宝牒

三天賜福招財宝牒 二八・五×三六・五 二三・二×三一・三

三〇·五×四六·七

二八·八×四六·八

少

太上解冤免難消災保寿金章

九天玄女姻縁和合宝牒

″

-

セット

二六・〇×三四・三

三天賜福転運降鴻宝牒

太上解冤免難消災宝寿金章

和合招財宝牒封

九天玄女姻縁和合宝牒

三天賜福貴人宝牒封

よりやや大きい。 は茶色の紙を用いたものが稀にある。五枚重ねて二つ折りにしてあるが、最上面の三天賜福転運降鴻宝牒は、 貴をあらわす「拝大寿」の図や、招財貴人二、和合二仙の図も加えられている。 の表に右にあげた字句を刷り、二竜争珠の図を附したものだが、セットAの三天賜福転運降鴻宝牒には、 三天賜福転運降鴻宝牒は赤ないし桃色の紙を、 牒から変化した状袋状の変形紙符は他にも多くみられる。 他は黄色い紙を用いる。ただしどれにも牒はなく状袋のみである。 またセットBの三天賜福貴人宝牒封に 鴻運と長命富 他の状袋 状袋

五宝牒は香港でよく売れる紙符の一つである。 貴人指引永保平安(各別項)を添える。元宝にはさんで五宝牒を焚化する人もある。 五宝を祈願してこの紙符を焚す時は、円形の貴人牒、 長貴人、

6

意味であるが、 暁諭慈心公文牒と緑色で木版刷りしてある。 これもがんらい牒であったものが状袋形の変形紙符に転化した一例である。 封入されるべき牒は省略されている。地王というのは幽冥都の十殿閻羅を統裁する最高の仏者である。 地王が配下の陰司の察理を行わしめ、 補運符。白い状袋に、 陰司に慈悲の心をさとさしめた牒の 地王行飭察理陰司

符疏に関する調査

(三五七) 一七

とされるのであろう。病気や運気停滞を感じた時に、元宝にはさむか他の符疏と一緒に焚す。22.5×34.5 cm 慈心と次にあげる息心は、 補運すなわち運気転換の呪力があるとされる。鬼に安息を与える結果、 その祟りがやわらぐ

· 息心

息心」と併せよばれるのがふつうである。一部では祖先への供養にもよいとされる。23×34.3 cm 冥府十王殿の審判によって苦海をさまよう亡者に関するものである。慈心とセットで用いられることが多いので、「慈心 補運符化している。元宝を添えて焚化すると、 黄色い状袋の表に、赤色で地王行飭察理陰司暁諭息心公文牒と刷ってある。これにも封入する牒がなく、状袋だけが 鬼に安息を与えることができる結果、補運の効果をうることができる。

8 斎 疏

しんで食斎したことを報告する上行文の意味であろうが、 に焚化して神明の庇護を祈るのに用いる。また食斎する日を「通疏」といっており、この時にこれを焚化することもあ 疏が平安符に転化したもの。黄色い状袋の表に、敬修斎疏文上達と赤で刷りこみ、この七字を竜でかこんでいる。 木版印刷。26×35 cm 現在は状袋のみで疏文は省略されている。食斎者が朔望ごと

9 都城隍

化した結果、 広東省で最高位の城隍神が下した牒、もしくはその城隍神あての疏であったかと想像される。 平安符。 黄色の状袋に、 状袋が変形の平安符に変化したのであろう。 広東都城隍 本月 Ħ と赤で印刷し、 竜と植物の図柄でかこんだもの。 文書封入を省略して簡略 がんらいは広州におり

ると信じられていた。都城隍とよばれるこの符を焚すと、 生前善行を積んだもの、 邪悪の行いがなかったものは、 死後に各種、各クラスある城隍爺のいづれかのポストにつけ 死者が城隍爺に任命される助けになり、 その応報として、死

者がこの世の家族に平安をあたえてくれるというわけである。家族の一員が死亡した時、 祖霊を祀る際に、 元宝、 金銀紙、 紙衣を添えて焚化する。 木版印刷。 23×34.5 cm あるいは清明節や重陽節など

10 玄 壇

る。 冲犯を予防するために焚す。とくに旧一月二十日の驚蟄に元宝とこの玄壇を焚化する。 に小人がおこす口論、 白虎を拝み、 これも状袋の平安符である。 このほか、 玄壇を焚して祈求すると、 「打小人」といって、履物を脱いで地面を叩いたり、 噂、 確執を避けるのによいといわれる。 状袋は白色、 白虎が小人を食べてくれるからその年中小人の冲犯がなくなると信じられてい 表に緑色で竜と霊宝玄壇 履物で地面を踏みにじって小人を押送する。 本月 日 封の八字を刷っている。 この日は白虎が開口するので、 小人にたいする

ない ょ \$ なお虎の像 0 ではないか、 土地公祠には虎像はないが、 (虎爺) という推測がある。 が土地神像の下方、床に接したところに祀られるのは台湾の特長であり、大陸の土地廟に虎爺は 必要に応じ紙製の白虎を用いるから、虎像があるといってもよい。23.3×34.8 cm 香港の寺廟には、土もしくはセメントの虎像をみることがあり、 それを白虎と

11 長命富貴永保平安

狗関、 夜啼関、 貴永保平安の下に、 解殺解厄消災延生宝緑」と題する関煞消除の文と、 分が天丁能解厄、 長寿、 鉄蛇関、 平安、 截路関、 富貴の平安符ないし駆邪符といえよう。上端に長命富貴永保平安と横列の八字がある。 百日関など、 地将鎮関中の字句と、天丁地将をあらわしたと思われる絵図である。左半分は、 四季関、 閻王関、 急脚関、 関煞の名が横に排列されている。 将軍関、 断橋関、 太歲関、鬼門関、 浴盆関、 凶星をすみやかに解散させる駆邪符となっている。さらに、 天吊関、 和尚関、 落井関、 鶏公関、 下情関、 白虎関、 五鬼関、 雷公関、短命関、 深水関、 湯火関、 「竜虎神正童子解関 水火関、千日関、 その下は、 四柱関、 長命富 右半 天

符疏に関する調査

をもち、

十六才までに時

々この関煞にであうおそれ

が

二十六関煞なるものが図

人間は、

各人の生辰に応じて冲犯をさけが

た

1

関

煞



図 4 関熱の図 (部分) ある。 りであげられており 閻 四季関 王 関 『広経堂通勝』 凶喜事 凡正二三月壬辰時生人犯此関、 凡七八九十十二月子午寅卯時生人犯此、 天徳月徳可解 (図 4) に、

忌

歳出入

帯

長命を保つために、 防処置が 虎関を使っ してあり、 示されている。 トプレイ女史は、 た複雑な儀礼 ح すくなくも三種類がでまわっている。 0) 紙符を他の解災符と一緒に元宝盤にのせて焚化するのである。 それにもかかわらず危険な関を通り抜ける必要があると判断されると、 (開関到橋) 過関は簡単な儀礼であるが、 を必要とするようになるといっている。 ただし図柄は大差ない これを怠ると種 などと、 冲犯しやすい関と、 々の不利が生じ、 0 54.5×31 cm そこで予め関煞を消除 土紙のような紙か、 さけるべき禁忌、 廟 行って紙紮の 過関とい 黄色い て平安富貴 う簡単 望まし 紙に 橋 な

12 午時符

赤で印刷

船、

儀礼を行う。

()

予

であっ 蛇虫鼠 短 **#** 蟻 形の たので、 細長 切 泛 端陽節に鍾馗像や葫蘆形の色紙によってまじないする習俗が中国にあっ とある。 紙符であり、 最下端にも符様の 上端に 八卦の \$ 図 0) がある。 勅令の二字、 赤で印刷してある。 三点符頭があり、 端陽 続 節 (1) 7 前後は悪疫、 た。 「五月五日午時書破 しかし、 五毒 すくなくも近年の が猖獗する時期 者官非 舌

駆除できるというから、鎮宅符と一般の平安符を兼ねていることになる。市街地においても、 香港ではこのことが認められない。そのかわり、当日午の刻つまり真昼の十二時前後に雄黄酒を飲み、午時符を門扉ある。 るいは軒口に貼る習慣がまだ一部にのこる。その効用は、11官煞、 がある。 なお貼ってから自然に剝落するのにまかせておくのであって、剝ぎとってはいけないとされる。4.4×26 cm 口禍を招かない、②虫蛇、 この紙符をみかけること 鼠の害がない、 (3) 小人を

13 羊双紙 (床頭符、好醜事紙) (5図)

にたいする説明が附されている。すくなくも次の二種類が認められる。 平安符。白色の紙に、赤色で木版刷りにしてある。三段、三列、 計九区画にしきられ、 各区画に各々ちがう絵と、

入欄羊刃、 飛来羊刄、 出欄羊刄、百解羊刄、頂心羊刄、撞来羊刄、鼓角羊刄、好事悪事、 凶吉二事の九区画から

なるもの。14×15 cm

入欄好、 飛来烊、 田欄烊、 色胉羊刄、頂心羊刄、種木羊刄、鼓角羊刄、好事悪事、凶吉二事の九区画からなるも

 \circ 13×15 cm

いる。

刄は刃の俗字である。また妦は羊刄と同じ意味で用いられているようである。A、 Bともに頂心羊刃が中央に位置して

が正反対の星と衝戦している状態をいうのであるから、障害はさらに大きくなる。百解羊刄、鼓角羊刄、色舶羊刄、 出欄羊刄はかこみをとびだしたもので凶星として障害をあたえる。さらに飛来羊刄とか撞来羊刄は、とびだした羊刄星 され、羊刄星の力が強いほど障害が多い。入欄羊刄はこの星がとじこめられて力を失っているので無事息災であるが、 羊刄は命理学上の名称であり、 凶星の一つである羊刄星 (陽刄星)のことである。この星の人は性格が剛強であると

符疏に関する調査

木羊刄の意味は不明である



忘れられ、 いうだけである。 れを除くと心気自ら暢順となり、 羊刄星は右にのべたような凶星であるが、香港では原義が 頂心羊刄は心気不快の原因となるものであり、 阻滞とか不利が消散すると

かう。 (1 り 灰を清水にまぜて飲む。 符のしかたに二とうりある。 羊刃紙は主として育児に関した平安符として受容されてお 災難、 先づ中央の頂心羊刄を指で破りすて、三角形に折ってつ 病気、驚嚇から子供を守ると信じられている。服 他の一は身に帯びている。 一は元宝と一緒に焚化し、 このばあ その

このばあい寝室に貼る。 「好醜事紙」とよばれることがある。 しかし羊刄星に冲犯しないための平安符が本来の姿であろうと思われる。 別に子供の守護、子授けの紙符としている人があって、「床頭符」 またこの紙符を凶、 善事に参加する時身につけていく人が

14 花 楼 図 10

ある。

このため

とよぶ。

るものは子を抱く)、橋、従者をつれて橋上を渡る騎馬姿の神明、 縦長の白紙に、 紅緑二色で木版刷りにしてある。 中央に、白い花、赤い花、 橋下を竜船ですぎる神明などが描かれている。 子孫堂の遍額をかかげた建物、 神明 図の (あ

右に

姑婆金花夫人七十二位近来父母送来父母送生司

花

馬富命人十二位奶娘花园土地長春平安信男信女

とある。文中の园は園であろう。また図の左には次のようにある。

東园花公李太祖西园花母壮夫人東西南北琼花開

母血刄夫人血刄父母床頭花公床尾化婆小児大個

楼

この紙符は後に考察を進めるように、送子、安胎、安産、 男子出生、育児の綜合符である。とこでは香港における説明

のみを記しておく。

ある。 る_。⑧ とでは註生娘々(千秋三月二十日)のことをいわない。 花楼は金花夫人を拝む時に、吉紙、大百解(各別項)、 元宝と一緒に焚化する。 金花夫人は広東の地方的な神明であ 洪武年間にいたとされる金花女という身分の低い娘 神明としては低い地位にあるが、妊娠、 出産、幼児保護の神として盛んに崇拝される。即日は旧四月十七日。こ (一説では巫) が神格化され、崇拝されるようになったもの

別に年末の団年に、金銀紙、 元宝と一緒に焚化する家庭もある。 小児が健康で成長し、家内平安であることを保証し

てくれるからである。11×20.7 cm

15 五雷牒(五雷破禁釈兇宝牒)

印刷してある。 道果無里康公主符、 れている。 補運に用いる。 これら神明は、武当山得道(玄武か)、送生司馬夫人、降鱗星、 右端に福禄寿と八仙の図があり、 状袋と封入した文書が一組をなしている点、香港では珍しい例である。文書は緑色の紙に朱色で木版 天公羅喉星君、 運財童子、 神尾計都星君、 左端に三天神聖諸星護佑保安文牒の十二文字と、 財帛星君である、と香燭紙紮店では説明する。また中央 和合進富星、吐玉星、 多数の神明が図示さ 招財進宝吉星、玉封

符疏に関する調査

二六三

は諸天星辰解除流年運限全章と題する全章となっているが、印刷が不鮮明なため内容を知りえない。

ける符疏のなかでは一番大きい。この符疏はどの香燭紙紮店にもあるとは限らず、むしろそなえていない店 の 方 が 多 章を一枚に刷りこんだ文書であるから本来の書式にはかなっていないが、文書を封入する点が珍しい。また香港でみう 流年、 方、状袋も緑色をしており、 運限などがよくない時、これを焚化し五行雷神に補運を祈求する。状袋 $28 \times 61 \, \mathrm{cm}$ 文書 $54 \times 125 \, \mathrm{cm}$ 五雷破禁繹凶宝牒の八字を金色で印刷してある。宝牒と上書し、封入する方は牒と全

16玉皇紙

封入したものであろうか。現在は状袋だけであり、補運符化している。元宝と一緒に焚化する。知らずに犯した罪が るされ、不幸、不順利が消散するとされる。玉皇の不興がとけるという人もある。20×34.3 cm 黄色い状袋に、 赤で昇竜の図と、玉皇旨降 本月 日封の八字を刷ってある。がんらい玉皇の諭旨を下達させる文書を

17 運 盤

運 長命富貴 字がある。 にはか、 気のいかんにかかわらず、 これも補運に関係した紙符である。オフセット多色印刷。中央に福禄寿三神の図、その上下に蝙蝠の図、 自己の信心する神明を祈った後、 左右には二個連続した銭貨の図がみられる。運盤は四辺に貴人・禄馬(各別項)を貼ってもちいる。 (左下) など、めでたい句がみられる。桃は、 紙符の四隅に、 桃が二個づつある。 運盤を誕生日ごとに焚化するのを習慣としている家庭もある。39×22 cm 元宝盤にのせて焚化する。 桃の上には、鴻運亨通(右上)、四方大利(右下)、丁財貴寿(左上)、 図案化された双喜、寿の字の連続によって連結されている。 運気が強くなる結果、 福禄寿がかなえられるとされる。 左右に寿の

16 吉 紙 (図6)

駆邪符。 白い薄紙に緑色で字と図を印刷してある。符面は四段計三十二コマに区画されており、各コマ内に、 符疏に関する調査

第一 第二段 段 (右から) (右から) 咳嗽、 天門用客、符解代人、 羊双、 欠飲食、 日軽夜重、 **隔**屎尿、 外道咒、白虎、 四方代人、消災難、 割骨肉、 凶吉事、 男女神 五道伤神、

上高

底

吐

伤

神

(右から) 天羅関、 日夜罪、 花王父母、 小児関旬、 心痛肚痛、 過往虚空、 夜在朝街 消災経

第四段 (右から) 求飲食、 角双代人、当方土地、 山災水災、 発冷熱、 闌街截巷、 簷前簷後 醧

の文字と、それを絵説きした図が入っている。

> 飲食、 骨肉、 らざる神明 などである。 白虎、 心痛肚痛、 闌街截巷などの不平衡状態あるいは不利、 羊双、 (男女神、 天羅、 発冷熱などの病気と傷害、 小児などの関煞、 五道伤神、 花王父母、 咳嗽、 当方土地、 日軽夜重、 欠飲食、 さらに冲犯すべか 上高底、 嘔吐伤神 **隔**屎尿、 欠 割

(各別項)、元宝と一緒に焚化する。18.2×15.6 cm 難百病がなく子供を育てる 祈求をする時などに、 五鬼紙、 拝犯紙 年まわりが不利な時であるとか、子供の成長に阻滞がある時、災

19 貴人指引永保平安

どの字句がみられる。 難金牌 に黒または金色で印刷したもの。 都合二 道、 一枚の紙符で一組となる。 免刑尅金牌一道、 金牌が紙符に簡略化したものであろうか。 免官非金牌一道、 符面に、 は賜福禄寿金牌であり、 賜福禄寿金牌一道、 免凶煞金牌一 赤い紙 道 免災

(二六五) 二五

れを縦に三つ折りする。

を元宝と一緒に焚すことがある。これを焚すと、無意識のうちに貴人の指示に従って行動するようになるから、 刷ったものである。 もみつかるし、その他現状が改善されるというのである。26×24.8, さらに黄色の小さい符を封入するが、これは解災紙(別項)、貴人緑馬のB 邪煞解除、 一本万利、和気生財を祈求して焚化するのがふつうである。 21×5.2 cm (別項)、張柳二仙の招財和合符を一枚に 特例として求職者が この符 い職

20 単貴人

赤い紙で人間の形をきわめて抽象的に切り抜いたものである。頭に銭貨の形二個ないし 個がつく。 紙は必ず赤色で

21 単緑馬

ある。11 cm

緑色の紙で馬の形を抽象的に切り抜いたものである。単貴人は人間を正面から見た形であるが、単緑馬の方は馬を横

から見たところである。 11 cm

22 貴人緑馬(A)

単緑馬の上に単貴人を貼り、 「拝小人」 かつ貴人の両手に金色の紙を切り抜いてつくった「金花掌」を貼ったもの。金花掌は小 に用いる。

23 貴人緑馬 $\widehat{\mathbf{B}}$

くを追い出すためである。

る。

15. 3×9 cm

に銭貨をもつ。尾側にいる貴人は右手に銭貨を、左手に笞をもつ姿で示されている。貴人指引、禄馬扶持の字句がみえ 白色の紙に紅緑二色で木版印刷したもの。 図は緑馬一と貴人二からなる。馬の頭側にいる貴人は、右手に答を、

24 小人緑馬

白色の紙に緑馬 一頭を緑色で印刷したもの。 馬の背に鞍があり疾走する姿で示されるが、 騎乗者はない。 木版刷り。

 $16 \times 9.2 \text{ cm}$

25 長貴人(拖手貴人)

わたって、剪紙のごとき要領で切りこんだもの。ただし、 赤色の紙でつくる。縦に五つ折りにし、左右一一、上下七七センチ大にしてから、横に連続する貴人の顔を何段にも 顔の図形はきわめて簡略化されている。

なく、 薩、 る。 にして用いている。 貴人扶持の文字を附してある。この例をみると、香港製の長貴人が五つ折にしてあるのは偶然の結果でないことがわか 印刷地は不明であるが、サイゴンで用いられている同種のものをみると、顔が黒で具象的に印刷されているばかりで 香港例では、上端と下端に銭貨の形を切りこむだけである。単緑馬を貼らないかわり、 桃果、竜、鳳、 一例ごとに一つの願いごとがこめられているのである。またサイゴン例では、下端に単緑馬を貼り、 顔の下に、第一列なら貴人得力、第二列なら貴人指引、 銭貨、灯提などの図と、従心所欲、合家平安、金馬玉堂、玉堂貴人などの字句がある。 第三列なら貴人進財、第四列なら貴人進寿、 次にあげる長緑馬とセット 上端に観音菩 これにたい 第五列なら

26 長緑馬

んだものである。上下両端は銭形の切りこみとなる。常に長貴人と一緒に使用される。 緑色の紙でつくる。これも五つ折りにし、左右一一センチ、上下七七センチ大にしてから、 緑馬の形を何段も切りて

27 貴人碟

これも貴人、緑馬の一 種であるが、円形をしているのが特色となっている。赤一枚、緑一枚で一組となる。どちらも

符疏に関する調査

因心 宥 證 果滅

中心

部

に

図案化

した寿の字を切りて

了。

さらに赤

13

方には

銭貨と貴人を

径

紙

図 7

貴

人

十九赦前大年 在 住奉 太赦前失失罪 金 上岳王廣示祈福 信士修德積善 伏以元皇道教清! 信或資前生所定或貧或賤命 昭 年祈 口家焚香 九赦宅舍刑 三赦流年病 日 時

> 交互に 一八セ 連続させた切りこみがあ ン チの大形や、 径 九 セ り、 ン チ位 緑色の方には銭貨のそれがある。 0) 小 形がある

28 貴 人人紙 (図7)

非 とがある。 と説明さ 神明図と、 聖 邪 解 消愆証果滅罪天尊、 千年罪、 宅舎刑、 厄 に関 れる。 20. 連 赦免を願う文がある。 万年愁、 して説明されている。 赦散安室の赦免を乞う滅罪符であるが、 $.8 \times 18$ 黄色い 流年病、 紙で印刷したものと、 洪恩赦宥消災解厄赦書などとある。 水火災、 ح 0) 上端に長命 神明も貴 盗賊 ル患、 赤 15 人 富貴金玉満堂、 児女虚 紙に黒で印刷 説では状元及第一 香港では貴 前生債 また乗馬姿の 右端、 L たも 人の に大 \Box 駆 舌

29 靴傘符

除 17 あわ せ、 室内で傘を振っ 駆 邪符 て押煞する習俗 0) つ。 傘 は 散 がみられたとい 0) ホ E フ オ 1 ン う。 災厄 洋傘 消 散の 0 普及に反比例し 意味 が あ る。 香港

では、

以前、

旧年末の

大掃

したとみら

れてい

る。

靴

6

邪

魔を蹴り

だす意味が

ある

15 はらう葵扇 は 黄 解 紅に 傘 ・赤で印刷したものと、 消除 化 邪 风 魔を蹴り 百解の文字がある。 É す靴、 白紙に赤青の二色印刷をしたものとがある。 公差が手にした鍵、 しい づ れ B 駆邪、 公差が手にしている長刀、 解厄 15 力の ある器物 前者には消 0) 図 を附 同じく公差が手にしている破邪 傘解 j ° 除、 す な らわち、 百解 0) 風を起 字 があ Ď, Ū て邪 後 符疏に関する調査

箒は道教儀礼においても押煞の道具であるが、 箒、小人をこらしめる金花掌と銀花掌(金巴掌、 しくない人間や物を追いだすことを「掃把拍」というのも、 広東方言を話す中国人の日常生活中にもこの考えが定着している。 銀巴掌)、懲しめの竹(いわゆる板、刑具の一つ)などの図である。 箒に悪煞を追いはらう霊力が依憑していることと関係して 好ま

通常、 縦に一 つ折りにし、 なかに長さ二八センチの竹籤をはさんで糊でとめて売る。小人の祟りを解散させたい時、

. る。

図8 五 鬼 紙

くる「除日」に焚化する。黄紙 10.4×17.2cmいっしょに焚化する。また予め小人の祟りを避けるため、驚蟄いっとは、とない、大百解(各別項)、金銀紙、紙衣などと

白紙 11.2×17.2 cm.

30 五鬼紙 (図8)

唯一の符である。

ものを頭につけるが、 前者では五鬼は醜怪な人間の姿であらわされ、後者ではかぶり В A 五鬼、 五鬼、 鎖、箒、 朱雀、 蛇 蛇 裸身を木葉の腰蓑でおおう未開「蛮人」 虎、猪类 虎、猪、 烏鴉 鷹 18. 4×16 . 5 cm 20.8×18.2 cm

(二六九) 二九

の姿であらわされている。 白虎を祀る時、 小人厄をはらう時、 元宝をそえて焚化する。

31 解災紙 (図 9)

截煞霊符とある。 駆邪符の一。上段に、大成北斗上元星君百解符咒、天解賜福禎祥地解化難生恩とあり、 また災厄速解の符三と、神明三を刷りこむほか、 左のごとき祈福文がある。 右端に天解賜福

奉為祈福

自命 年 月 日 時

信士 本月 日台前伏乞

解干災 二解百難 三解疾病

四解流年 七解不祥 五解官非 九解散 六解盗賊

八解口舌

太上賜福袪邪出外引福益堂

年 月 日

この祈福文は、 不祥之兆、 夫妻不睦、烏立悪巻、百病など十二災厄の赦免を願う解災文となる。 版元によって、十災百難、四季凶星、百無禁忌、瘡疥跌星、官非口舌、 家宅不安、 水火賊盗、 日上日

らわしたものであろう。ただし、新元発紙厰製のものは、 洞陰大帝であるという。もしそうであれば、上元(旧一月十五日、天官誕日)に天官が福をさずけ、 また災厄速解符につく神明は、三元星君とされる。中央が天官一品紫微大帝、左が地官二品清虚大帝、右が水官三品 地官誕日)に地官が人の犯した罪をゆるし、下元(旧十月十五日、水官誕日)に水官が厄難を消散させることをあ 体裁は大差ないが、中央の神明を賜富星君とし、左の神明に 中元 (旧七月十五



る。 は賜福禄寿の四字を附す。 焚化する。21×18.3 cm この符は百解紙 (別項) の最下段にもみられ

32 五雷符

れ を持っ れる。 元帥、 のうち中門を支配し、 とあるとうりである。 をしている。 神明は哪吒太子であり、 をあらわすのであろう。 木版刷りの駆邪符であり、 周の武王の先鋒となって紂王を滅したという伝説がある。 英時雷殷大元帥などの字句がついている。 た雷神五と、 『封神榜』 神明一を刷っている。 また神将神兵の総帥として邪魔を鎮圧するとい 哪吒太子は殷の紂王時代に李靖の三男として生 第十四回に、「哪吒腳踏風火二輪、 当年雷殷大元帥、 右肩に火尖鎗をかつぎ、 黄色い 紙に赤で、 行月雷殷大元帥、 雷神は誅兇辟邪の「五雷元帥 悪煞を撲殺する斧とノミ 両足で風火輪を踏む 手提火尖鎗 護日雷殷大 天門五 姿

符の中央に百解符、 百解、 雷霆、 鎮宅、 保安、 玉封、 勅封などの字句がある。 哪吒太子と五雷元帥の法力によっ て駆

邪を行う紙符である。

安 地で行われるように、 用い 符なのであろう。 方は二とうりある。 30. 7×47 . 5 cm 元宝と一 つは離島部でみうけるように、 緒に焚化し、 「拝小人」や一般の解厄を行うばあいである。 これを門扉に貼って鎮宅符とするばあいである。 が んら (1) が 「保家宅四季平 他 は市

街

符疏に関する調査

犯符 (拝犯紙)

というが、この時に祟りを鎮めるために用いる。元宝、玄壇、五鬼紙、 他は同様な紙片に、 本来の符の形をしている。一は短冊形の黄腊紙に、赤で勅令と印刷し、続けて三点符頭と別一種の符を加えたもの。 符打、 勅令、三点頭、 符呪を一行に記したもの。煞神などの祟りを広東方言では「起犯」 hei faan 百解紙(別項)と一緒に焚化する。6.5×18 cm

観音経

 6.7×19 cm

非口舌、 となっている。一部には観音経を記したものがある。 に観音菩薩と従祀、 災紙に類似する。 家眷相刑、 白紙に緑色で刷る。木版。21×17.5 cm 小人盗災、運限凶星、夜夢不祥、 蓮の花などをえがいた図があり、 破財疾退、宅舎相刑、散□安寧である。すでにあげた貴人紙 その十二厄とは、千災百難、 左側は十二厄をすみやかに解くよう救苦救難観世音に祈求する文 四季凶星、 流年疾病、 瘡疥失星、

右

35 百解紙 (吉紙百解)

負い、 の用いる羅針盤などの図と、天星火官除毒害、八卦水神滅凶災の句など。鹿も禄と同音である。(第一段左)。(3)貴人紙 (第二段)。(4貴人指引永保平安の符(第三段)。(5解災紙 諸種の紙符を一枚に集成したものである。黄色い紙に赤色で刷る。ふつうみるものは、山張師座鎮の図。大刀を背に 虎に座す。 斬邪治鬼の四字と、印をおした形で張師座鎮の四字がある。(第一段右)。(2)八卦、 (第四段) からなる。 鹿 蝙蝠、 風水師

なっている。紙符にたいする知識が乏しい者にたいしても、何によって起犯を生じたのか不確かなばあいでも、 ただし、版元によって若干ことなることがある。あらゆる災厄の解除によいとされるので、よく売れる紙符の一つと との百

36 大百解

紙船一、 符疏については既に解説したとうりである。 船であり、 紙で箔の小さいもの七、 を総称して大百解というのであって、 百解紙が各種の符を一枚に刷るのにたいし、大百解は各種の符疏、紙銭、紙衣を積みあげたものをいう。そのセット 線香六、臘燭二、百解紙一、休衣一〇、銀紙三、金紙一、五鬼紙一、慈心一、玄壇一、息心一、銀紙一七、金 船首と船尾が緑色、 金紙で箔の大きいもの四、元宝一一、以上からなっていた。紙船というのは、 船体が赤色であるため紅緑小船ともよばれる。病神、瘟神を押送する意味がある。 大百解という紙符は存在しない。 任意のセットを購入したところ、 紙でつくった小 上から順に 他の

る。 息心、 以上、元宝は一〇対以上とされる。また孤魂、小人にたいして焚す大百解は、 大百解は災難凶災を鎮め、 大百解の一般的な原則をいうと、神明のために焚すばあいは、先づ元宝盤の上に金銀紙をのせ、さらに寿金、 紙衣、 拝犯紙、 百解紙の順序で上にのせていき、最後に紙船をのせる。 あるいは未然に予防する力があるとされ、 人びとは香燭をささげよく礼拝して焚化してい 寿金のかわりに五鬼紙、 紙衣は一〇枚以上、金銀紙と寿金は一束 溪銭を用いる。 玄壇、

Ⅲ 所 見

現している。 ら紙符の背後には、 香港 . の 九七〇年代初頭に通用している符疏は以上のとうりである。 祖霊 地方性を示す小人、貴人、金花夫人があるほか、 孤魂、五鬼、 凶吉星、煞神、 関煞、 土主、元神などがそれである。 旧中国的な価値観や、 個々の紙符にたいする説明中でもふれたが、 道士、 伝統的な超自然観が随所に出 道観とい うべきほどのもの され

符疏に関する調査

(二七三) 三三

る。 ある。 がない にあげた理由から、 くりかえし断るが、ここに集められた紙符は、 香港ではあるが、 ほんの側面を示すだけの数と種類ではなく、考察の起点とするには十分なものが含まれていると信ず 簡便きわまりない紙符のなかにも、民衆道教的な価値体系が息づいていることを知らされるので 香港の紙符を余すところなく網羅したものではない。 けれども、

広東の文化的 され、どのような社会集団に拒否されているかを考える方が有効である。 7 経をはらう必要は はない。 戸が直接道路に臨むことが多い農村では、 伴う紙符の消滅があることは確かである。 方をかえて持続させるケースが認められる。 人びとは門戸に貼る紙符に関心を失ってしまう。 香港に関するかぎり、 全体的にみると市街地と農村は紙符を共有しているといえる。 また最近二十余年における社会変化の一つとして大陸からの人口移動をあげることができるが、これにひどく神 パターンのなかに入っていたからである。 ない。 市街地の紙符と農村のそれとを区別する必要は感じられない。 香港と広東省間はがんらいが往来自由であり、 門戸に貼る紙符が比較的みられるが、高層ビルに密閉されて暮す市街地では このことは門戸に貼る紙符、 五電符がそのカテゴリィに入る。しかし、 あるいは、 同一の紙符でありながら、 むしろ地域社会において、どのような社会集団に受容 人と文物が間断なく往来し、香港の中国人社会は 牌子において特によく認められる。 しかしこれは小稿において問題とすべき対象で とれは例外としてもよいのであっ 貼るかわりに焚化するなど、 市街地の側で、 居住様式の変化 一戸建で、 用い 闁 に

一されていること②本来の紙符が少なく、 明を通じて理解できたことと思う。 香港紙符の形式的特色が、 続いて、紙符の全体を通じ、 既述のように、1)符、 絵図式のものが主流を占めること、以上の二点に要約できることは、 疏、 牒などのカテゴリイが曖昧になり、 あるいは特定モデルを提示して、香港紙符の特質を分析 すべて簡便な紙符に統 個 Ò 説

していこう。

は、 らないにしても、民衆に見捨てられた符疏だといえる。 いづれも広東方言を話す民衆に深く必要とされた紙符だといえる。またその過程で消滅したものはそれが何か具体的に判 種類は減少せざるをえなかったはずである。 わば手工時代である。 がんらい符疏が道士、 限られた種類の紙符だけが印刷されるのである。 これにたいし、 仏家の手書き、手刷りによっていた時代には、 香港の符疏インダストリィにみられるような機械による大量印刷シ 換言すると、 従って、手工時代から大量印刷時代への長い過程において、 現在の符疏はいわば既にえらばれて残ったものばかりであり、 符疏の種類は無数にあったとみてよい。 ステ ム 紙符の 0 符疏 下

げ、他の店は四種類しかあげていないが、これはこの際かまわぬことにする。結果をみると、 を寄せているかが想像できる。 厄に関するものであるし、 係することになる。また貴人・緑馬とは称さないが、表2中のものでいえば、玄壇、五雷符、 人・緑馬の類というのは、 されるのは、 符疏をセッ 馬の類が、 ドで年間平均してよく売れる符疏が何であるかを、任意に選んだ九店についてまとめたものである。ある店は九種類をあ ところが、 年間を通じて各店ともよく売れている。既にのべたように、大百解という名の紙符はないのであって、これ ŀ 紙符を選別する手間さえ省こうとする簡略化のあらわれとして理解してよさそうである。 にして何にでも対処しようとするものである。 現在の符疏でも、 貴人指引永保平安は貴人に関係している。 貴人と緑馬に関係ある符疏のすべてを意味するのであって、これらは当然ながら小人厄に そのなかに自ら多用されるものとそうでないものとの相対的差異がある。 五宝牒もまた五枚一組である。 広東方言の常用者がいかに貴人、 かかるセット式が民衆に 午時符、 大百解、 緑馬、 またここでいう貴 五鬼紙などは小人 五宝牒、 表2は香港サイ 小人に関 貴人・緑 ・も関 歓迎

0 貴 也 人関係の ット式の五宝牒にしてからが、丁財貴寿禄をさずけてもらうために貴人の力にたよるわけであり、 紙符を一 緒に焚化するのである。貴人に五福をさずけてもらう、 あるいは貴人の力で赦罪を願うほか、 その 証 拠に、 貴

\subseteq
七六
\mathcal{O}
三六

強く意識されていることにひとしい。 この小人厄

が盛んなことは、別のことばでいうなら、小人厄が

るところにある。だから貴人・緑馬にたいする信仰

緑馬の果している重要な機能は、小人厄を解流

は、そのかなりが噂をまきちらす、縁談

が

こわれ

る、揉事が起る、事業が不振になるといった社会生

活に関係するのが特色となっている。貴人について

符疏	紙類	店	No. 1] 湾仔 小売 2	No. 2 " " 2	No. 3 " " 1	No. 4 " 2	No. 5	No. 6 " 2	No. 7	' No. 8 中環 " 1	No. 9 西環 卸売 15	計
大五貴玉士	百 宝 •緑馬(皇	紙	0	0000	0 0 0 0	0000		00000	00000	0 0 0	0	9 8 8 7
玄 長命冒	富貴永保 雷	壇 平安 符	0	0		0	0	<u>(</u>		, 0		5 3
.}	牛 心·息 _{旨引永保}	符心平安		0	0				. 0		0	2 2 2
午 五 拝 運	時 鬼 犯	符紙紙盤	0		•						0	1 1 1 1

表2. よく売れる符疏は何か(紙紮店欄は,整理番号,所在地区 卸・小売の別,従業員数の順)

安符である。さらに一、二店では、ともかく祖霊に紙、運盤、ならびに育児に関係した長命富貴永保平これらについで多いのが、補運符としての 玉 皇

的存在となるのである。

も天后でもなく、貴人に凝集しており、貴人が中心

港では民衆がすべてを託しうる神明はいまや呂祖で

えると、貴人信仰の盛況もうなづける。ともあれ香

土から人が集まり、人間構成が複雑な香港社会を考

との社会関係が円滑無事にいくなどである。

中国全

うまくいく、新しい土地での人間関係や新しい仲間

も同様のことが指摘できる。貴人を拝めば職探しが

身につけた人がふえる過程では、 ことは既に消滅し、 で幸運や財を築くことを知っており、 的にいうならば、 関する符 (慈心・ 陰律、 息心)、 医術でどうもならぬ時に符疏を思い出すようなものである。学校教育の普及に従い、 陰罰の逃れがたいことは、 鎮宅符 (土牛符)、 他力的な招福招財符や避邪符が捨て去られるが、 ただそれが叶わぬ時に運気の弱さを思い起すのである。 祟りを解く符 旧時代ほど意識されていないようである。 (犯符) がよく売れるものの一つになっているのである。 補運符にはなおしばらく生存する余地 人びとは他力によらず自力 符疏によって病気をなおす 科学的思考力を 般

が残されるように思われる。

あっ 録が れとも でも治病のために補運符、 想の普及や、 13 をはっきりさせることができる。 ないからである。 かし香港における社会変化過程に対応した紙符の変化を問題にするなら、失われた紙符をとりあげる方が問題 旧中国には、 「医者に見放された」 現在の香港では吉紙があげられるくらいのものであり、 長らく拒絶反応を示していた西洋医術にたいする受容などが治病符を一掃したにちがい 治咳符、 しかし旧中国の一般傾向から推測して、 駆邪符を焚化するものがあるが、それは西医なり中医なりの処置と併行して行っているか、 治嘔吐符、 からである。 失われた紙符がなんであったか、 治火眼符、 治寒病符など、それこそ万病に応じた治病符が無数といってよいくらい 治病と産育に関する紙符が脱落していることはまちが 治病符らしい治病符はみあたらない。 その具体的なリストを示すことはできない。 ない 医療施設と衛生思 0 である。 過去の 0 現在 所 な 在

産 した関係上、 を入道の大義とし、 生児の夭折 出産、 現代人が想像もつかぬほど、 育児についても、 が現在よりはるかに高率であったことがその理由の一つである。 それが直系男子にになわれたことや、 旧中国社会では数えきれぬぐらいの儀礼、 男子出生が真摯に望まれたのである。 経済的には家族労働的な農業生産に直結した家族制度を基礎 民間信仰、 現在 また紙符のよって立つ社会が、 の香港においても、 紙符があった。 死産、 たし かに祖先祭 褥死、 祖 先祭祀

進歩につれて後退あるいは低下を示している。従って、現在通用中の紙符をみても、花楼のみが姙娠と安産に関するもの 生児数は三○六三人という結果になっている。また出産にたいする恐怖、不安、あるいは幼児死亡なども、(氧) 下した事実によく投影しており、一九六六年バイセンサスでは、未亡人と離婚者もふくめ既婚女性一〇〇〇人にたいする を否認し、 港への転化に応じて急速に展開した経済変化に影響されて、 うりである。 であり、 る動向もまことに著しいのである。法律上にもこれが反映しており、家庭内、社交上、遺産相続上で承認されていた複婚 祀が重要視されており、 「できるだけたくさん子供をもちたい」という意識もともに薄れつつある。このことは一九六○年代以降出生率が低 育児についても、 男子中心の婚姻、 また家父長権とか直系嫡長などの意識も依然強いのであるが、 その一端は金紙、 羊刄紙、長命富貴永保平安、吉紙の三種類をあげうるにすぎないのである。 相続制度を改めたのはその一つのあらわれである。今は昔のように男児出生に偏執する意識 往生銭、祖先衣、あるいは慈心・息心、 古い家制度や、 社会秩序を支えてきた意識を改造しようとす その一方では、 都城隍などの符疏にあらわれていると 戦後における香港の加工貿易 衛生と医薬の

問題を考えていくことにしよう。 に安定したのだとみられるのである。 このように香港の紙符は、大量印刷システムというメカニズムと、旧中国における社会変化との挟撃を経て現在の それでは現在の紙符が一体いかなる文化存在であるのか、 特定モデルによってこの 種 類

婆金花夫人の字句から察しても、 事成長を願う綜合符である。中央に絵図があり、 し、その他については、 花楼は姙娠と出産に関する紙符である。すでにのべたとうり、送子、安胎 台湾の道教儀礼と民間信仰を援用しなければよくわからない。 姙娠, 出産、 育児、 かつ絵図の左右に二行の文がそれぞれみられる。そして文中にみえる姑 幼児庇護の女神である金花女に関係していることがわかる。 (胎神)符であり、 かつ男子出生と生児の

台湾で子授け、安産、 男子出生、 生児の無事成長に関して信仰される神明は数多い。 陳栄盛氏蔵、 手写本 『霊宝栽花

夫人、 でいう胎神、 喜科儀』 花公花婆二位星君、三十六宫送花婆姐、 から拾いだすと、 床母や血刄夫人(産刄夫人)がある。 南斗星君、 観音仏祖、 七十二院送喜婆神、 陳林李三宮夫人 (三奶夫人)、 巡花童子、 送花童郎などがあげられるほ 元神星君、 南岳盐 生娘々、 か、 南北二斗註 民間

ば 胎神という胎児の魂があって、 人は悪婆姐であって、 る註生娘々である。 一十二婆姐の像はいづれも嬰児を抱いている。そのうちの六人は好婆姐であって、よい姿勢で嬰児を抱いている。 まづ人間の生死は天命であり、 註生娘々の部下には十二支に配した「婆姐」があり、人に子を授けたり奪取する。 悪婆姐が不規則な姿勢で抱いている嬰児を授かる時は、子が必ず夭折するとされたのである。 姙婦の室内、 南斗星が生を司り 宅地内あるいは器物に潜在しており、 (註生)、北斗星が死を司る (註寿)。子授けの神は諸廟に配祀してあ 月令によってその位置が変るから、不 鈴木清一郎によ 他の六 また

高能公本太祖西国花母壮夫 位近来公 地馬 楼 花 図10

あり、 をきたすと信じられていた。(2) して陰間にのこるが、 文をとなえてから符を貼ったのである。 婦の枕もとで鉦笛をならし、 めるのが安胎符であり、 神を犯すと、 が授かるか、 用意にその位置を動かしたり釘を打って胎 また人は生まれた後も、 各人の花樹をみれば、 また男児か女児かがわかると 腹痛、 流産、 女性の元神は花樹で 三奶派の道士が 難産、 元神がいぜんと 符をかき、 その女性に子 この胎神を 胎児異状 贶

符疏に関する調査

(二七九) 三九

子である された。姙娠中は花樹に蕾があり、その蕾が開花する時がすなわち出産となる。その花が赤なら生児は女子、白ければ男

変える祈禱に、これらのスピリット・ミーディアムが重要な役割を果したのである。 この花樹をみる霊力をそなえたのが、童乩、紅姨、盲目の売卜者である。従って花樹の手入れをしたり、胎児の性別を

亭はちょうどその中間の関所とされる。 子、送喜童郎などがいて、花樹の手入れをするのである。前述した『霊宝栽花祈喜科儀』には、毎月の花園花樹のありさ まを一年十二カ月にわたりよんだものが入っている。 花樹のある花園は、冥府の六角亭のそばにあるとされていた。冥府への道程には十二の関所(十二宮)があるが、六角 花園には三奶夫人の配下にある花公、花母、 三十六婆姐、 七十二婆神、 巡花童

式的 勢のつりあい られていた。また子の生辰にもとづく八字(時辰八字) 生娘々が信仰された。さらに出生後は、十五才に達するまで床母という寝台にいる子供の神が保護してくれるものと信じ れて苦しみをなめるとして怖れられていた。そこで難産を救う女神として臨水夫人が、また安産の神として三奶夫人、 均衡をはかるためであった。この契子は、台湾では観音菩薩と註生娘々がうけもった。 また血刄夫人なるものがあり、姙娠中あるいは産褥でこの神を犯すと、産婦が死亡し、地獄の一つである血池へ投ぜら に運気の強い婦人の義子としたり(契媽)、神の義子として(契子)、陰陽五行にもとづく時辰八字、 をはかることが行われた。八字のよすぎる子は、逆に形式的ながら乞食の義子とするのも、 が親のそれと相尅するばあいや、 八字が悪く病弱なばあいは、 同じような運勢 いいかえれば運 註 形

とができず、また広東では専ら金花夫人をいって註生娘々をいわないなど地方性はある。 琼花開母は台湾にみあたらないのであるが、なおかなりのものが対応するのである (表3)。 こうした神々を花楼と比較していくと、かなり問題が解決してくる。

血刄父母、 また送生司馬富命人、東西南北 床頭花公のことは台湾で聞くこ

表3. 産育に関する神明

種	別	台 湾	花楼
註	生	南斗星君	
		南北二斗註生夫人	
子挖	受け	南岳註生娘々	姑婆金花夫人
送	花	十二婆姐	十二位奶娘
	-	三十六宮送花婆姐	
	<i>*</i> .	七十二院送喜婆神	七十二位远来父母送来父母
栽	花	花公星君	東園花公李太祖
	1	花婆星君	西園花母荘夫人
		巡花童子	
1		送花童郎	
元	神	元神星君	
胎	神	胎神	
産	刃	血刃夫人	血刃夫人
安	産	三奶夫人	
		臨水夫人•註生娘々	金花夫人
育	児	床 母	床尾花婆?
			床頭花公?
契	子	観音仏祖	金花夫人
		註生娘々	

れについて、もう一度台湾のばあいを考えてみた緑船(紙船)を意味するのかとも想像される。こも祈願する女性の「替人」をのせて血池へ行く紅

うか、詳しくはわからない。最下端の竜船も意味不明である。あるいは冥府の奈何橋、奈何江をあらわすものか、それと

ち広東の奶娘であろう。図の下半部は、『落嶽探宮科』の一節、「三哥打馬走到六角亭上六角磚」をあらわしたものであろ

血刄夫人はじめ産育に関係ありとされる諸神をあらわすものであり、そのうち子を抱くのが台湾の婆姐、すなわ

すると図中の子孫堂は花園をあらわし、子孫堂上部の花は生児をあらわすのであろう。子孫堂の前にならぶ神明は、金

花夫人、

を意味する。流蝦の性を帯びている産婦は、分娩 があって、それを「祈禳血刄」と称している。 「流襲」の性を帯びているものがある。 「流襲」とも書く。蝦と霞は同音である。 で流襲」とも書く。蝦と霞は同音である。 で流襲」とも書く。蝦と霞は同音である。 である。 できるよう祈禱する道教儀 できるよう祈禱する道教儀 できるよう祈禱する道教儀

二八二 四一

を見ても死亡するとされた。流蝦の性をもつ女性の安産祈禱が、 に際し水を動かすと死亡するという迷信があり、水ガメに全部フタをして分娩したほどである。また分娩に際し赤色の 「祭流蝦」とよばれる道教儀礼である。 これらはいづれ

も広い意味での解厄の儀礼である。

恨、 紙紮品でもよいし、 焚化する。 が儀礼ごとに厳しく規定されていることや、定まった供えものと、定まった紙紮品のあることがわかる。 血刄夫人にあてる。表4はこれらを簡略に表示して比較した結果である。 との三種の道教儀礼は、 あるいは悪口などを解く解厄の儀礼を加えた。道教儀礼においていかなる疏牒を用いるか、 疏は、 祈禳栽花なら三奶夫人と花公・花母にあてるし、 祈禱を道士に依頼した産婦が身につけていた衣服でもよい。 いづれも三奶夫人を祀る廟で行われ、供えものをし、疏文を呈し、経をよみ、元宝と紙紮品を 祈禳血刄なら血刄夫人と九天衛房聖母、 参考までに「祈禳解連」とよばれる、 いかなる紙銭を用いるか なお姐母衣は 祭流蝦ならば 前世の遺

の紙片に人の姿を印刷したものを紙人とよぶ。紙紮品のばあいもある。 ことであり、 供えものについては、必要欠くべからざるもののみを表にあげた。また替人というのは、 わらで作ったものを草人といい、十二支にちなみ獣頭人身の形を切りぬいた紙製のものを十二生肖、 祈願者の厄を移すひとがた 0)

表4のうちでは、 疏と牒、 紙銭、 紙紮品、 その他としたもの、 ならびに供えもののうち姐母衣が焚化されるも 0) C あ

る。

ある。 藁を原料にした粗 ところが道士が身近かにいない地方とか、 て の 部を簡単にすませたいばあいには、 簡略化は産育の儀礼だけにかぎらず、 末 な紙である。 同じ図柄を印刷したもの計一二枚を重ねて一束にし、 草紙に印刷した絵入りの紙符を焼いてすませる便法がある。 それにかわるべき職能者も招くことができない地方、 たいていの避祟、災厄解消にあてはまり、 二つ折りにしてから焚化するの 絵入り紙符の方も間に合うよ あるい 草紙というの は儀礼の

表4 解厄に関する四種の儀礼

1					_:		. \		1.							-	
その		紙紮	替		紙	牒		疏		念				供えもの		場	種
他			人	:	銭			文		経				もの		所	別
	白虎、栽花	花公花母、五方煞神、	草人		寿金、元宝	なし	花公花母あて一	三奶夫人あて一	禳災度厄妙経	三官経(省略してもよい)	-	糕、花、三牲	粿、菜碗、糕子、水果、米	姐母衣、酒、茶、紅円、発	とでもよい	三奶夫人像のある廟ならど	祈禳栽花
血刃紙	虎、紙船、替人(女性)	産刃(血刃)、五方煞神、白	草人		寿金、元宝	なし	九天衛房聖母あて一	血刃夫人あて一		三官経		水果、米糕、花、三牲	紅円、発粿、菜碗、糕子、	姐母衣、酒、茶、肉、酒、		同上	祈禳血刃
		産刃、流蝦、紙船	草人、十二生肖		寿金、元宝	なし		血刃夫人あて一	禳災度厄妙経	三官経	果、米糕、花、三牲	円、発粿、菜碗、糕子、水	い糸、おしろい(白粉)、紅	姐母衣、肉酒、茶、酒、赤		同上	
彩、布一丈二寸	神、太歳、白虎	霊鴉、凉傘、天狗、五方煞	草人	宝	寿金、太極金、財子金、元	解連牒		-	玉枢経	禳災度厄妙経	一〇八個、三牲	った洗面器、斗米、秤、銭	菜碗、糕子、水果、水をは	酒、茶、花、紅円、発粿、	一三官大帝を祀る廟	天壇、あるいは南北斗星か	祈禳解連

うになっている。たとえば嘉義県朴子鎮のある金銀紙店では

太歲、将軍、大王、花公花婆、五鬼、火神、十二婆姐、十二元神、改厄、白虎、天狗、買命、陰陽、牛馬将軍、銅蛇鉄 狗、山神土地、天官、地府、煞神、白猿、亡魂、甲馬、神馬雲馬、前世父母、閻王、傘任(産刄)、断橋、喪門、六畜、

符疏に関する調査

二八三 四三

買路、 流蝦、 刑尅、 水官、 過関、 夫人、本命、転輪銭、 往生銭品

に多種のものが通用しているとみられる。 0 あたえるのが、 なってから、 ことになるわけである。 ており、 四十種を常備している。 煞神と白虎が間接的に関係する。そこで表4の儀礼にかえて関係ある紙符を焚化することも行われるし、 それに相当する絵入り紙符によって代用することもできるのである。 儀礼あるいは紙紮品の簡便化として生じたものがあることをこのことが示唆している。また簡便化に契機を 道士の欠如であることもこのさい記憶されてよい。 絵入り紙符のなかには、長い伝統をもつものがあるにちがいない。 他に改念経 (度厄経)、胎神、 右のうち、花公花母、十二婆姐、 青驚婆姐、 五秀などを売る地方もあるから、 傘任、流蝦が直接姙娠、 儀礼を一枚ないし数枚の紙符に縮約する しかしその一部には、 変胎、 台湾全体ではさら 安産に関係し 後世

楼とよぶこの一枚の紙符にあらわされているといえる。祀るべき神明と、 もに焚化されるものであるから、同じく焚化される紙符に統合されやすかったといわなければならない。 かつ関係あることがらを絵説きにして仕上がっているのである。疏とか牒、 これを花楼に適用すれば、 本来の道教儀礼でいう祈禳栽花、 祈禳血刄、 供えて焚化すべき紙紮品を文字と絵図にかえ、 ならびに民間信仰の床母などが縮約されて、花 紙紮品は、 儀礼の最終段階で紙銭、

あろう。 に移された結果であるのかは明らかでないが。 礼に用いるべき疏牒と紙紮品などの全部もしくは一部が紙符化し、その結果紙符を売る香燭紙紮店の叢生を招い 香港では道士、 この現象が開港以 符術者などが身近かで得にくいところから、 一後に香港で生じたものであるのか、それとも広州あたりにおいて既に累積していたものが 道術、 符術が大衆化したため、 儀礼そのもの、 あるい は

意味において、 香燭紙紮店の叢生は、 旧文化要素の退化的な残存形態として位置づけするのは的確といえない。 道教体系の上からみれば、 あまりにも退廃した現像であるにちがいない。だが、 紙符には、 道士を欠く社会であ これを消極 的

文化存在としての香燭紙紮店や符疏は、 りながら、 である。最後に調査に協力いただいた何錦栄、 なおかつ民衆道教が執拗に生存し続けていこうとする一種の積極性が投影しているのである。いいかえれば、 民衆道教の、社会変化にたいする適存形態の一つとしてとらえることができるの アルフレッド・張、 趙玉蓮、 何玉儀、 黄麗香、 郭維明など香港中文大学の

本稿は、科学研究費(海外調査補助) によって行われた「道教儀礼の調査」 (代表者大渕忍爾) の成果の一部である。

学生諸君に謝意を表したい。

Ì

局 曆書、近二百年中西紀年対照表、四季黄帝詩曰、二十八宿· 求人、吉凶星宜忌、土地杯、 眼跳法、霊応神符、二十六関煞、洗頭吉日、裁衣吉日、安床 周公鮮夢吉凶書、豊年耕種、霊符定時定数歌訣、 五行星男女値年表、花甲相冲及吉凶神方位表、 探病忌企方位、赤松子下降、 諸葛拚字芸術妙算、 董公選択日要覧、陰陽曆百中経、新撮諏、吉時表、 秘本諸葛神数、 金銭卦、 小児剃頭日、 相法択要図、 華英通語 九星 小児受胎 図像解 算命不

日曆。

(2) 女性のスピリット・ミーディアムをいう広東方言。一九 pp. 107-108)。また三周忌に問神婆が招かれることは、 Life Today: Brochure of HKBRAS. Hong Kong 1967, 霊を探しだし、何が問題なのか、どうしたらそれが解決でき 界で探す。しばしばちがう死霊がでてくるが、結局求める死 病気の原因となっている死霊とくに依頼人の家族のそれを冥 は主として死者とのコミュニケーションを行う。まづ凶厄、 婆一人を確認した。数はすくない。トプレイ女史は、問神婆 身の問神婆を一人、離島泙洲の天后廟近くに東莞出身の問神 七〇年九月の調査では、九竜深水埗の三太子廟近くに台山出 Occasional Rites in Hong Kong. るのかをただす。ある問神婆はスピリット・ポゼションを通 Chinese Ideas and Conceptions in Hong Kong Social してこれを行うといっている(Marjorie Topley, Chinese 『香港の水上居民』東京 一九七〇年、 頁一四九参照 Some Traditional

(二八五) 四五

符疏に関する調査

- (3) 盲の易者は街道でよくみかける。彼らは男性であるが、 の骨片をポケットにいれているといっている。 冥界にある元神をみることができるとされている。亀甲を手 にしながらよく占をしているが、トプレイ女史は死んだ小児
- 4 day のなかの左記論文。 Ideas and Conceptions in Hong Kong Social Life To-トプレイ女史が編集した Some Traditional Chinese

Kong. pasim Marjorie Topley, Chinese Occasional Rites in Hong Traditional Relationship to Society. pp. 13-16 Marjorie Topley, Some Basic Conceptions and their

- 5 曽景来『台湾宗教と迷信陋習』。台北 一九三九年、一八
- (φ) Henry Doré, Researches into Chinese Taipei 1966, Vol.4, pp.462-463 & Fig.179 tions. English Translation by M. Kennelly. Reprint Supersti-
- 7 Topley, Chinese Occasional Rites. p. 112
- (8) 金花夫人は、地方官夫人の難産を救ったところから安産 溺死したが、 その屍体が くさらず、 香木のようで あったの で、巡撫が金花普主恵福夫人としたといういい伝えもある。 で、それを祀ったところ子授けの霊験があらたかであったの の神となったといわれるほか、五月の竜船競渡を見にいって
- 可児、前掲書、頁一二九一一三〇

- 10 一三巻第一号、一九七二年 可児『婚姻法改正とその問題点(香港)』「アジア経済」
- 11 九三四年、頁九〇 鈴木清一郎『台湾旧慣、冠婚葬祭と年中行事』、 台北
- 12 同前、頁九一
- (1) 国分直一『台湾におけるシャーマニズム』「民俗学評論 第六号、一九七一年
- $\widehat{14}$ 同前
- 15 神と同じ)、転輪銭、往生銭 をよける)、水官、過関、夫人(夫人厄をはらう)、本命(元 門(喪門星を犯す厄をはらう)、六畜(六畜興旺)、七星(北 だし閻王を除く)、煞神、白猿(子供の営養不良に使う)、亡 軍)、 銅蛇鉄狗(奈何橋の下にいる銅蛇と 鉄狗)、 る悪霊「遊路将軍」 を犯した時使う)、 大王(子供が大王神 斗七星)、買路(路関)、 童子(童子関)、流蝦、 刑尅 上)、前世父母、閻王、傘任(産刄)、断橋(夭折を防ぐ)、喪 間より買う銭)、陰陽(まいないの銭)、牛馬将軍 を犯したとき使う)、花公花婆、五鬼、 火神、 十二婆姐、十 一元神(収驚に使う)、改厄、白虎、天狗、買命(生命を陰 (田畑の守護神。山神と土地公)、 天官、 地府(地府王、 太歳(動土に使う)、将軍(住む家がなく諸方を徘回す 甲馬(玉皇への使者が用いる戦甲と馬)、神馬雲馬 (牛馬二将